

日中学生友好登山隊 中国・四川省「雪宝頂」へ

吉永 英明



議定書の調印式で握手をする李副主席(左)と大塚会長 撮影・羽田栄治

しかし幸いにして、帰国直後、議定書にサインをいただき、中国側に手渡すことができた。

七月二十六日、本会ルームにおいて、JAC側から大塚会長、小倉・竹内両副会長、斎藤前会長、宮崎常務理事(学生部担当)、中国登山協会側から李致新副主席、李舒平經理部主任、李豪杰渉外担当の各氏が出席して、神崎学生部指導委員の司会で「議定書」の調印式が行われた。当初、橋本龍太郎議員が登山隊名譽顧問として出席される予定であったが、急遽、政府特使としてモロッコ国王の葬儀に参列されることとなったため、残念ながら欠席された。

七月二十六日、本会ルームにおいて、JAC側から大塚会長、小倉・竹内両副会長、斎藤前会長、宮崎常務理事(学生部担当)、中国登山協会側から李致新副主席、李舒平經理部主任、李豪杰渉外担当の各氏が出席して、神崎学生部指導委員の司会で「議定書」の調印式が行われた。

学生部では昨年、斎藤前会長を通じて中国登山協会から提案された「日中学生友好登山隊」(中国側・中日青年友好登山隊)計画が実施の運びとなった。

一九八六年、日本ヒマラヤ協会と四川省合同隊により初登頂されていたという名勝の地がある。

登山隊は宮崎常務理事を隊長に、日本側十名、中国側十名(隊長を含む)。九月三日、日本を發ち、二十日間を予定している。目標の「雪宝頂」は、四川省の省都・成都のほぼ真北に位置する岷山山脈の主峰で標高は五五八八メートル、中国の地図には必ず載っている名峰である。古くからチベット族の信仰の山として崇められてきた山で、山麓には白馬チベット族という白い鶏の羽を帽子に飾る人々が住み、北方には世界自然遺産に登録されている「九寨溝」という名勝の地がある。

また、当日は夕刻から、多数の会員と隊員の学生たちが参加して、賑やかに歓迎会が催され、登山隊の成功を祈った。

登山隊は宮崎常務理事を隊長に、日本側十名、中国側十名(隊長を含む)。九月三日、日本を發ち、二十日間を予定している。目標の「雪宝頂」は、四川省の省都・成都のほぼ真北に位置する岷山山脈の主峰で標高は五五八八メートル、中国の地図には必ず載っている名峰である。古くからチベット族の信仰の山として崇められてきた山で、山麓には白馬チベット族という白い鶏の羽を帽子に飾る人々が住み、北方には世界自然遺産に登録されている「九寨溝」という名勝の地がある。



1999年(平成11年)
9月号(No.652)

社団法人 日本山岳会

The Japanese Alpine Club

定価1部 150円

目次

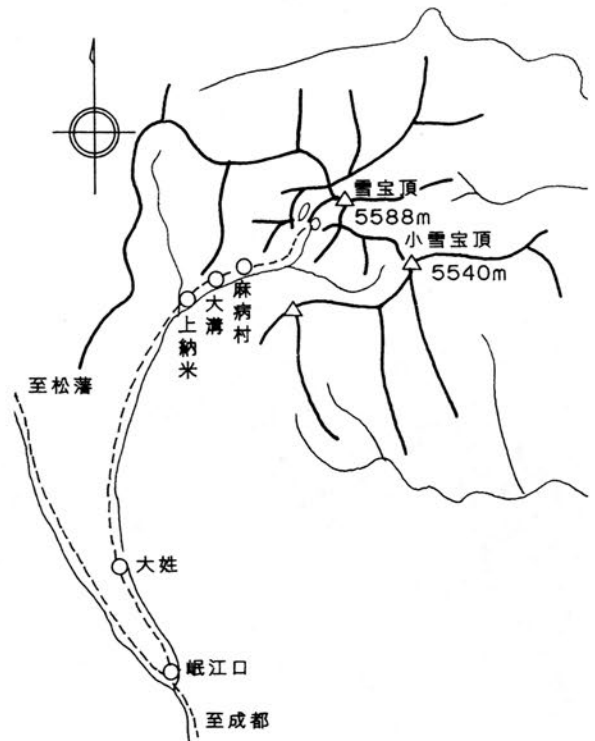
日中学生友好登山隊「雪宝頂」へ……	1
海外の山……	3
支部日より	
東海・勉強会森を見る目を養う4	
信濃・第53回ウエストン祭……	5
岩手・早池峰山行……	5
秋田・韓国・雪岳山と五台山……	6
富士山に記念植樹……	7
山梨・故百瀬氏所蔵本の展示会7	
さんげんだより・山研節水宣言……	7
東西南北	
アルバータ峰のビッケル贈呈式8	
カムチャツカ行……	8
俳句・鏡山、一切経山……	9
マッキンリーと大蔵隊長……	9
図書紹介……	10
『大地に見える奇妙な模様』『近江百山』『空と山のあいだ』『東海山岳』『残された山靴』『南アルプス』	
図書受入報告……	12
新入会員……	12
会務報告……	13
ルーム日誌……	14
INFORMATION ……	14

- ▶ 日本山岳会事務取扱時間
月・火・木 ……10～20時
水・金 ……13～20時
第2、第4土曜日 ……閉室
第1、第3、第5土曜日 ……10～18時
▶ 図書室開室時間
日曜・祭日・月曜日を除く毎日 ……
……………13～20時



岷山山脈の主峰雪宝頂 (5588m) 撮影・八木原園明

雪宝頂付近概念図



雪宝頂位置図



る。今回の登山も南西側BC(四一七〇メートル)からの初登頂ルートが登路予定であるが、偵察のうえ可能であれば未知のルートからの登頂を中国側と合意している。

次代をになう日中の学生たちが合同で登山を行い、登山を通じて友好と相互理解を深めることは、大いに意義のあることであろう。斎藤前会長も「山のみでなく、中国の民衆と接するなど、広い視野で中国を見てきて欲しい」と歓迎会で挨拶された。

今回は初めての試みであるため、両国学生の交流を主として、中国側の提案で「雪宝頂」となったが、今後は回を重ね、未知の山域への第一歩としたい。会員諸氏のご支援をお願いしたい。

日程
九月三日

成田発

登山隊メンバー

隊長 宮崎紘一(学生部担当・常務理事)

副隊長 吉永英明(学生部指導委員)

鳥居和雄(学生部指導委員)

松本達彦(日本大学四年)

松本信太郎(中央大学四年)

平井泰夫(立正大学四年)

新津正浩(横浜国大三年)

都築秀昭(立正大学三年)

岡本雄樹(立正大学三年)

若山紘一(東京農大三)

石川重樹(日本大学二年)

渡辺佳苗(早稲田大学二年)

六日 成都発

八日 BC建設

九、十四日 登山活動

十八日 成都着

二十日 北京着

二十二日 帰国

海外の山

鉄人、 マッターホルンに死す

江本嘉伸



富士山を走る下嶋教授 (98年7月)

「十時ごろには頂上に着くつもりだ」
下嶋浩は、こう夫人に言つてマッターホルン(四四七八メートル)に向かった。

八月十五日午前四時、シュワルツゼーのホテルでのことだ。

しかし、走る山の鉄人は、帰らなかった。翌十六日、滑落遺体となつて確認されたのである。単独行で目撃者もいなかったため、遭難の経緯はわからない。

東京工大の教授である下嶋は、七月と在外研究員としてスイスに滞在し、週末を山歩きにあてていた。

遭難一週間前の八月八日、山梨県の中山嘉太郎あてに、メールが届いている。私信だが、山々に挑戦し続けた鉄人の心を伝えるために、一部を掲載させていただく。中山は九二年、メキシコで行われた「十倍トライアスロン(水泳三八キロ、自転車

一八〇〇キロ、マラソン四二二キロ)」という信じられないレースを日本人として唯一完走(三百二時間かかった)した人だ。

「山の資料もらいつばなしでスイスに来て、はや一カ月が経ってしまいました。

日本は暑いそうですが、こちらは一五―三〇度以下の快適気候です。

山の方は、ガイドレス・単独(金魚のフン戦法もとらない)・無酸素・速攻(山中泊しない)で、毎週中上への難度の四〇〇m峰をこなしています。装備はビッケル、八本刃アイゼン、トレッキングシューズで一応ビバーク用品は持ち、雪上でも出来るだけ走っています。ただ、予備知識が山溪のアルペンガイド海外版『アルプス4000M峰登山ガイド』だけなので、ぶつつけ本番に近く、敗退も目立ちます。たとえば、

・DOM(四五四五m、スイス国内最高峰) 7/11、駅から標高差三三〇〇m、標高四〇〇〇mで、氷河から岩稜に移ったところで降雪強く、視界無く、敗退。途中で会ったのは三パーティ七人。

・MATTERHORN(四四七八m) HORNER、7/20、SCHWARZ-SEEから標高差一九〇〇m、頂上直下一五〇mの氷壁でノーザイルの下降に不安を感じ、敗退。会ったのは数パーティ。

下部のルートファインディングがメチャクチャ難しく、時間を食う。岩は順層で二、三級。ただし延々と続くので体力勝負……」

下嶋は、「快足速攻」を提唱、実践した登山家として知られる。とりわけ、一九八六年「下嶋溪」のペンネームで書いた著書『ランニング登山』(山と溪谷社)が、登山者、ランナーに与えた影響は大きかった。

この書の中で下嶋は、ヒマラヤに未踏峰がなくなった後も時期、ルート、日数、装備、人数などさまざまな条件を持ち出して人間は競争し続ける、と指摘、「山川草木を愛で、花鳥風月に『もののあはれ』を感じる登山者(客)は確かに多いが、頂上に感傷の一切を押し、全能力、全財産、そして生命を賭けたひと握り

の競争者がいははじめて登山界は成り立っている」と言いきっている。

下嶋自信は、二度の遭難体験で家族や友人たちに心配をかけたことから、むしろ「必ず帰ってくる山登り」として、ランニング登山を位置づけていた。安全を旨とするが、自らに「記録を課す」ことによって「挑戦の山」を続行した、といえる。

富士登山レースや奥多摩一周山岳耐久レースに出場しても、必ず記録をめざしたが、五十四歳になった最近はずがに無理はしにくくなった。今回スイスでも山岳レースに出場したが「7/31のDAVOS ALPINE MARATHONは、練習不足で直前に七八kmから四二kmに変更したにもかかわらず、中間点で右膝痛が発生し、後半二〇kmの下りを全部歩きました」と中山あてメールに書いている。「人間の動作の滑らかさの研究」など、機械工学の専門を活かした独特の論文を持つだけにトレランニングも理論的だった。自宅に二台のミシンを持ち、工業用でザック類を、家庭用でウェア類を自分で作るほど、用具にも真剣に取り組んでいた。逸材マッターホルンに散る。無念だが、せめて登山界の活性化に果たした下嶋の役割はしっかり記憶しておこう。



芦生杉とブナの混在する稜線

東海支部

京都、関西両支部と共催で
勉強会——森を見る目を養うJAC
支部だより全国各地の支部から、独自の活動状況を
レポートします。

自然保護活動も、自然を正しく理解することから始まる。美しい日本の山の主要構成要素である森林について、一度基礎からきちんと勉強してみようということになった。東海支部自然保護委員会（委員長・橋村一豊）が発案し、京都支部および関西支部のそれぞれの自然保護委員長である秋野子弦さん、阪下幸一さんに持ちかけたところ、ぜひ一緒にやりましょうということで、三支部共催のもとに実行に移した。

場所は、京都府、福井県に境を接する滋賀県最奥の高島郡朽木村にある（財）森林文化協会自然研究所（通称朝日の森）を選定し、新緑の美しい六月十九、二十日の二日間にわたって行うことにした。勉強内容も、個別の樹木の見分け方など、いわゆる博物学的な知識は最小限にとどめ、植生、生態系、遷移などシステムとしての森の見方を主体にするよう計画した。

前日十八日夜、東海支部十四名、京都支部は酒井支部長以下十一名、関西支部六名の会員が車などに分乗して続々集結し、首都圏からも川越尚子自然保護委員が遠路馳せ参じ、合計三十二名の参加となった。

一日目、六月十九日は座学である。講師は（財）森林文化協会に属する森林環境研究所の海老沢秀夫所長である。

氏はこの朝日の森の企画および運営の責任者の一人でもあり、森を真に知っているといえる。

話は朝日の森の植生から始まった。暖かさの指数からは暖温帯に属するが、冬期は寒冷なのでシイは育たず、冷温帯との中間のいわば中間温帯であり、クリ、コナラ、モミを主体とする森である。日本海気象、とくに多量の湿雪の影響が大きく、雪に耐えられない植物は生き残れない。続いて森の構造、生態系、遷移と極相など本論に入る。「地上に姿を見せている木だけを見ても森は分かりません。土壌有機物、微生物、地中動物など地下の見えない部分を含めての連鎖が重要なのです」と示唆に富む話に、皆聞き入る。

難しい話に少し眠りかけたころ、各種生帯における代表的な樹木についての説明が始まる。同じ植生帯でも表日本と裏日本の樹木組成の違いは興味深いものがある。とくに、日本の山の特徴であるササについては分布、見分け方について詳しく説明を聞く。

聴講者は日本各地の山を歩きまわった者が多いので、「なるほど、あれはチマギザだったのか」など、今まで漫然と見ていた山に対して、これからは少しは知的に見て行く意欲が湧いてきたようだ。

座学に少々疲れたころ、少し森を歩いて、学んだことを実地に復習してみようと、朝日の森を二時間程度散策した。

森林地域は約一三六ヘクタール（うち天然林八三パーセント）と大である。森林環境研の圃場には、実にたくさん樹種が植えられており、効率のよい学習ができるよう配慮されている。雨天のため実習は一部にとどまったが、講義内容の理解に大いに役立った。なお、海老沢所長より有益な森の文献が十五冊紹介された。

翌二十日は、滋賀県と京都府の境をなす稜線を北から、三国岳、経ヶ岳とたどり森を見て歩いた。ここは三国（近江、山城、若狭）岳の名が示すように各方面からの最奥の地域で、自然が見事に残っている。東側は芦生の森で、由良川源流が北に向かって流れている。

地元に住み、芦生および朽木の森の生き字引でもある飯高恒夫さんと海老沢所長が案内に立つ。最高点は九五九メートルの三国岳で、森の特徴はブナと芦生杉の混在であり、カエデ類、シロモジ、ヤマツバキなど、多様な広葉樹が素晴らしい。ちょうどヤマボウシの花が満開で目を楽しませてくれた。

当日、平野部では快晴だったとの

ことであるが、稜線歩きは終日時雨模様であった。「なるほどこの湿潤な気候が芦生、朽木の森を育てているのだな」と実感した一日であった。

天候は今一つであったが、初回にしては地域、講師の選定も成功で、大方の参加者の満足が得られたようである。アンケートの結果を踏まえ、続行するか否か、続行する場合は、講座内容とレベル、場所施設などにつき三支部の自然保護委員で話し合い、企画する予定である。

(東海支部自然保護委員・猿山昌夫)

信濃支部

第五十三回ウエストン祭

今年で五十三回を迎えたウエストン祭は好天に恵まれ、六月五、六日に開催された。

初日は徳本峠越えの記念山行である。早朝六時出発し、新緑の美しい鳥谷谷を登った。村木さん、斎藤さん、大塚さんと三代の日本山岳会会長がそろって峠に立った。また、信濃支部長、副支部長がそろって峠越えをし、これも珍しいことであった。一方、毎年参加しているのは坂倉さんを中心としたエーデルワイスクラブの方々である。さらに、元氣いっぱい、の地元小学生、体育の単位取得で登った筑波大の学生など老若男女数

百名が参加した。

登山道は途中、集中豪雨などによってかなり荒れていたが、皆久しぶりにさわやかな空気を存分に吸い込んで、快適な山行を満喫した。

夜は、上高地アルペンホテルで夕食会を開く。例年信濃支部の例会の中では参加者が最多であり、今回も五十九名の支部会員が集まった。さらに、会長、副会長をはじめ本部役員、京都支部長、石川支部の方々に同席願ひ、八十名を超す会員によって盛大に行われた。

翌六日は抜けるような青空の下、支部会員一同は穂高を横目でにらみつつ、早朝から碑前祭の準備を行ったり、手拭いとバツジの完売を目指したりと、初夏の上高地を今日のセレモニーのために走り回った。

十時からの碑前祭には好天も幸いして五百人近い参加者があった。まず式典では大塚会長、有馬安曇村村長など主催者、来賓の挨拶、安曇村小学生的の献花、信濃支部会員の詩朗読などが行われた。

続いて記念講演に移り、本会青年部のヒマラヤ登山隊で活躍した松原尚之さんが登壇した。ウエストン祭という、中高年の登山愛好家のものというイメージがあり、最先端のクライマーが講師ということに意外感を抱いた向きもあったが、飾らない

い率直な話しぶりに好感が持てた。山登りを始めた経緯や南極点徒歩到達の大記録を作った時の苦勞話、心情を語られ、さらにヒマラヤ八千メートル峰の登山からヨセミテのビッグウォールまで、幅広い活躍ぶりが私たちに直に伝わり、次第に引き込まれていった。

現代はウエストンの時代のようなフロンティアは乏しいかもしれないが、アイスクライミング、フリークライミング、ヒマラヤなど魅力に富んだ多様な対象があり、それらは、各々がレベルの高いところまで独立して進歩を続けているので、選択できる分野は幅広く、奥深くなっているという話に皆感じ入った。

講演後、参加者からはよい話を聞かせてもらったという声を数多く聞いた。最後に安曇村小学校児童とエーデルワイスクラブの皆さんの美しい歌声が穂高にこだまし、碑前祭を締めくくった。

碑前祭終了後、環境庁や地元関係者を来賓として午餐会が開かれた。山岳会本部、京都支部、石川支部、山梨支部、新入会員の方々に、信濃支部を合わせ約百名で、ひとときの懇親を図った。今年もまたウエストン祭を無事終了することができ、多くの関係者のご協力に深く感謝しています。

(渡辺登司美)

岩手支部

同期会の皆さんとともに 早池峰山行

「96年同期の幹事会で、今年の山行は早池峰山にしようと考えています」と突然の連絡をもらったのは、対象の早池峰山がまだ雪帽子をかぶる三月のことであった。

その後、「早池峰」について浅学である私の知識を基に数度の調整が図られ、六月上旬には、

*山行日程 七月四日五時～十四時
*コース 入山「河原ノ坊」、下山「小田越」(下山後、条件によっては「薬師岳」をヒストン)



コンパスグラス HB-3

広視野10°の明るい視野に目盛が重なって見えます。見た目標がそのまま正しい磁気方位です。

重量78g.
つや消し黒 ￥17,000 送料 ￥600
黄橙色メタリック ￥18,000 消費税別

カタログ代無料、電話、FAX、来書でどうぞ
〒177 東京都練馬区上石神井1丁目37番13号
TEL 03-3262-5411 FAX 03-3262-5411

株式会社 石神井計器製作所

＊宿泊 三日「河原ノ坊」に幕営

などが確定したが、以後の私は、早くも「当日の天候と花の状態」に気がめだし、落ち着きを失う日々であった。

七月三日、同期のJAC岩手支部・小田島博さんの全面的協力の下に、「新花巻駅」に一行を迎えた。この日の岩手地方は、寒冷前線の影響を受けて小雨状態であり、遠路の来訪に何か申し訳ないような沈んだ気持ちになりかけていたが、昼食懇親会で「悪天候にもめげずに明日の山行を期待する姿」に接し、さすがはJACの同期と頼もしく感じられるひとときでもあった。

早池峰に向かう道すがら、樹木医の石井誠治さんの案内で「伝説の巨木」を見分し、悪天候から急遽変更した宿泊地「うすゆき山荘」に到着した。会員自慢の夕餉は、一流の調理師顔負けの見事なもので、夜の更けるのも忘れて歓談するのであった。

七月四日は早朝から激しい降雨に見舞われ、曇り空にかすかな期待を抱いていた私の気持ちを一層暗くしたが、全員元気に起床し、六時、山荘を出発。六時半ごろ河原ノ坊登山口に取りついた。ダケカンバやオオシラビソの林の中につながるコメガモリ沢沿いの足場は岩が滑り、軽快な足取りには程遠い状態で、標高一

三五〇メートル地点、頭垢離に着いたのは、八時を少し回ったところのことであった。

例年「ハヤチネウスユキソウ」は頭垢離から登る稜線から自生する。先頭部に位置していた私は、今にも眼下に飛び込んでくるであろう花を期待し、「ウスユキソウよこんにちは」と出合いの言葉を胸に一步一步進んだが、一四〇〇メートル地点の岩礫地に達したとき「皆さんありましたよ」と大声で叫ばずにはいられなかった。そこには雨露を受けた「ハヤチネウスユキソウ」一輪が、私たちの到着を待つかのように咲き誇っていたからである。

間もなく皆から「あった」「凄い」などの声が上がった。事実、花に導かれるように登る足元には、ウスユキソウの他「ナンブイヌナズナ」「ナンブトラノオ」などの特産種に對抗し「アズマギク」「ハクサンチドリ」「ムシトリスミレ」などなどが「私たちもハヤチネを母として咲いているのです」と自己主張するかのようには咲いており、「早池峰の評価は標高や山容によるものではなく、花によって生かされている」と実感せずにはいられない状況であった。「天候は午後近くから回復する」という気象台の予報は脆くも崩れ、一段と小雨交じりの風が強まる中、十

時四十分ごろ、石井由紀さんを先頭に山頂部に到着し、早池峰山行の所期の目的を達成した。(飯田邦幸)

秋田支部

支部創立四十周年記念―第二弾 韓国・雪岳山と五台山登山

当支部における創立四十周年記念行事の第二弾は、韓国の名峰雪岳山と五台山を選んで、五月十九日より六日間の日程で、十一名が参加して実施された。

第一日、仙台空港より金浦空港へ。曹斗鉉氏をはじめ韓国山岳会の諸氏に迎えられ、チャーターバスで一路洪川へ。立派なログハウスの洪川宿舎で歓迎会を開いていただく。

二日目早朝、車載鉉副会長一行の案内で、上院寺登山口より五台山へ。国内最大級の樹林帯と主峰より上王峰へ至る稜線上の見事な高山植物地帯を観察し、北台寺に下山。麓の月精寺参拝の後、雪岳山の裏山道口でもある五色里温泉に回り、五色グリーンヤードホテルに宿泊する。

第三日、早朝、馬山市より十時間もかけて車で駆けつけてくれた慶南道支部・申在鎬副支部長一行四名が合流し、五色里登山口より雪岳山へ。この日は特上の快晴となり、馬頭嶺方面に連なる山群や草束市街を始め

周囲一帯韓国特有の岩峰群の織りなすパノラマを肴に昼食(酒宴)を楽しんだ。

正午過ぎ、奇石怪石の壁を打つ勇壮な滝や奇岩の連なる表参道・神興寺へのコースを下山。筆者はこのコースを三昔前に登っているが、切り立った溪谷には安全のため鉄階段が延々と設置されるなど、道は立派に整備されており、感心させられた。この日は一晋ホテルに宿り、慶南道支部による交流会を開いていただく。

第四日、韓国の最北端にある統一展望台を訪れ、北朝鮮の名峰・金剛山や海上に広がる海金剛を臨み、帰路は東海岸を南下、洛山寺や鏡浦を観光し、メロディアンホテルに宿泊。

第五日、鏡浦から大関嶺を経てソウルに戻り、韓国山岳会元老会を表敬訪問。同会主催で歓迎交流会を湖畔において開催していただく。これまでの長年の親交を再確認し、交流は和気あいあい深夜まで続けられた。第六日、金浦空港から仙台空港へ。そして夕方秋田駅に着き、解散した。

実施にあたり韓国山岳会ならびに同元老会、そして姉妹山締結の韓国慶南道支部の諸氏に心より厚く感謝の意を表します。なお、九月下旬から五月末まで、山林寺の火災予防のため入山にあたっては許可が必要となっている。(佐々木民秀)

支部創立四十周年記念—第三弾 富士山に記念植樹

六月二十八日、支部創立日に併せて日本一低い富士山において記念の

植樹が実施された。

午後四時過ぎ、会員ら二十二名が集い、山頂のほうに桜を植樹、記念標柱も設置し、若木の前途を祝福した。終了後、近くの町内会館で祝賀

さんけんだより 「山研節水宣言」

管理人
木村太郎・弥生

山研の飲料水は、山研裏にある善六沢からパイプを通してとっています。山研から三〇〇メートルほど登った場所に取水口があるのです。取水口に落葉が詰まったり、何かの拍子にパイプが沢から浮き上がったり、様々な要因で水が止まってしまうことがあります。

水が止まる度に、二人で裏の沢に入り、どこに問題があるのか確認しつつ、復旧させていきます。天気がよい日は作業もさほど大変ではないのですが、雨が多い季節は毎日ハラハラし通します。

大雨の後、沢の水量が大幅に増え、水源に近づけない、あるいは沢の水が濁ってしまい、とても飲料水として使える状態でない場合

も多く、そんな時は山研に設置してある三トンの貯水槽だけが頼りです。三トンの貯水槽といってもピンと来ない方も多いと思いますが、十名ほどがお風呂に入り、皿を洗い、トイレの水を流し、洗面に使えば、一日でほとんどなくなってしまう量です。

雨が続き季節はいつ復旧できるか見込みがつかないため、利用客の方々には節水をお願いすることになります。お風呂は使用ストップ。皿を洗う際も水を溜めて洗っていたくようお願いします。それでも蛇口をひねれば大量に出てくる水に、なかなかその深刻さが伝わらず、水を流しっぱなしの方が多く、私たちはヒヤヒヤです。幸い今のところ、貯水槽の水が尽きてしまったことはありませんが、これからまた台風のシーズン。水の豊富な上高地で節水というのは不思議に思う方もいるかと思いますが、「山研節水宣言」が出された際はぜひご協力のほどを。

会を開催し、会員間の懇親を図った。

古来より富士山と呼ばれる山は全くに二百十六あるが、その中でもっとも低い富士山は秋田市の中心にある「明田富士山」である。平成元年十二月に「日本一低い富士山ここにあり」と、標高わずか三五メートルの山頂に、当支部で標柱を設置し、以来その存在を広くPRしているのである。

(佐々木民秀)

山梨支部

県立文学館で故百瀬氏 所蔵の本の展示会

元永年会員、元山梨県山岳連盟会長の故百瀬舜太郎氏(一九二一—一九九〇)が所蔵していた山の本の展示会「山の名著展—百瀬舜太郎コレクション—」が七月十三日から八月二十九日まで、甲府市貢川の山梨県立文学館常設展示場で開かれた。山梨県山岳連盟のポスト五十周年記念事業の一つ。

百瀬氏は昭和五年、甲府市の南嶺会創設会員、同六年日本山岳会入会。南アルプス、奥秩父、八ヶ岳を中心に活発な登山を展開、二十三年山梨県山岳連盟、日本山岳会山梨支部の設立に努力、三十二年から八年間県山岳連盟会長を務めた。

この間、山岳関係の図書の収集を

行い、戦災で中断したものの戦後再開して、自宅を「抱石山房」と称して開放した。明治以来の日本の山岳書をはじめ、主な大学山岳部の部報を含む各種山岳雑誌も創刊号から収集されている。また茨木猪之吉、中村清太郎、足立源一郎、畦池梅太郎らの絵画、またウエストン、ヤングの原書も書架に置かれていた。

今回の展示は常設展示場の一部を利用した特設展だが、二〇〇平方メートルに及ぶスペースには高島北海の「欧州山水奇勝」をはじめ河口慧海、鹿子木員信、志賀重昂、志村烏嶺、高頭式、冠松次郎、小島烏水、田部重治、木暮理太郎、松方三郎、横有恒、今西錦司などなど、日本の登山史を一望する二千冊に及ぶ豪華な展示である。

また「近代登山の夜明け」「山に憑かれた人々」「現代の登山文化」などに区分けされ、主な本や著書には簡明な解説をつけ、知らず知らずのうちに先人たちの山に対する情熱に吞み込まれてしまう。ピッケル、麻ザイル、鋲の登山靴など時代を感じさせる遺品も展示に変化を与えていた。

地方の文学館が山岳関係者と協力して、このような大規模な山岳名著展を開くのは珍しいことだと思ふ。

(高室陽二郎)

東西南北

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。(紙面に限りがありますので、一点につき二〇〇字詰原稿用紙五、六枚でお願いします)



イラスト 野田四郎

アルバータ峰のピッケル贈呈式

原 謙 一

七月十日、長野高校(長野市)において、同校創立百周年記念行事の一環として、ピッケル石突きいしつきの贈呈式、講演会、記念山行を行いました。この行事には、日本山岳会、カナダ山岳会(ACC)の会長、副会長、斎藤前会長、ジャスパール山岳博物館館長をお招きして、長野高校山岳班OBからJACCへ贈呈し、続いてJACCとACCの寄託調印式を行いました。

評議員の芳賀孝郎氏が「ピッケル物語」を講演され、その中でJACC創立には長野中学(現長野高校)の教師、志賀重昂氏や志村鳥嶺氏が深く関わっていたことなども述べられ

ました。石突きは長野高校山岳班OB隊が一九六五年、アルバータ峰第五登をした際に頂上から持ち帰り、一昨年の晩餐会でカナダから来た本体と合体した儀式を長野高校で再現しました。



長野高校山岳班OBからピッケルを贈呈される大塚会長

このピッケルは一九二五年、横さん、三田さんの慶応と学習院で編成されたJACC初の海外遠征の際に、有力な後援者であった細川護立侯爵から、アルバータ峰頂上に残しておくようにと贈られました。一九四八年第二登を果たしたアイレスとオバリーンが持ち帰ろうとして抜き取る際に斜めに折れてしまい、石突き部分が凍りついたケルンの中に残ったままになっていたのでした。

しばらくはルームで展示し、二〇〇〇年にはJACC、ACCの合同登山隊がアルバータ峰の頂上で合体させてからジャスパールイエローヘッド山岳博物館に展示されます。

翌日の記念山行は、戸隠表山を縦走して牧場に下りました。ACCの皆さんにも日本の山のよさを味わっていただけたことと思います。

お迎えした皆さんは善光寺門前で三百年以上続いている旅館に宿泊しましたが、宿帳に細川侯の若い頃の宿泊記録を見つけ、大喜びでした。なお、この旅館にはウエストン氏も昼食に立ち寄っています。

カムチャツカ行

伊佐九三四郎

今、夏のカムチャツカへは名古屋

から空路三時間。登山、観光の受け入れは万全ではないが、それだけに自然も人情も豊かなのが魅力だ。七、八月、カムチャツカの山は高山植物の宝庫でもある。登山後、河原の温泉に入り、ゴムボートの川下りで釣り糸を垂れるのも楽しい。

アバチャ山に登る

姿良き山をカムチャツカ富士といへば十指に余る白き山あり

ふるさとの富士より撓める山のあり
短き夏の一日に映ゆ

鴻荒の足音聞くごと荒れ荒れし河床
ゆく手に火の山のあり

雪よりも砂礫の急登に沈む足須走逆
に登りゆくごと

頂は溶石の間より噴気出づ往時のマ
グマ地下に宿して

アバチャ山とは父の意なりとガイド
いふ若者の振舞い吾子のごとくに

九時といふにはまだ日の暮れぬ村の
あり短き夏の長き一日

満月の生れたる姿に息を呑むアバチ
ヤ山懐火を囲む夜

ロシア語で「カチューシャ」歌へば
若き日の友がき浮かぶ夜の炎に

天幕を照らす満月皓々と暮れぬ一日
さらに長くす

ピーストラ川めぐりめぐりて流れゆ
く鮭オシヨロコマ魚影豊かに



イラスト 宇都木慎一

俳句

鏡山、一切経山―若葉会山行

小林碧郎

筒鳥や飯豊山塊山毛櫨^{ふな}さき

残雪の大日岳ぞ山毛櫨に立つ

春蟬^{しるせん}のこぞり山毛櫨山日^た開けたる

燈石^{らば}灼けて一切経山硫黄濃し

雪沫を容れ紺碧の嶺の池

今年もマッキンリーで会いましょう

マッキンリーと大蔵隊長

河村皆子

六月二十三日午後十時、日本山岳会第十次「気象観測機器設置隊」の一員として、長年の夢であったマッキンリー山頂に立つことができました。何ら輝かしい山歴もなく、あと二カ月で六十一歳になろうという私が登れたのは、何はさて置いても十年の長い年月をデナリ・パス上部における気象観測に心血を注いでこられた大蔵喜福隊長の広く豊かなお人柄によるものと、感謝の気持ちでいっぱいです。

スキーにしろ山にしろ、経験豊かな人は一目見ただけでその人がどのくらいのレベルを持っているか分かってしまいます。「へまをしてはいかん」と緊張する私に「ゆっくりでいいんだよ。高度障害さえ出なければ登れるからね」とホツとするような声がかかり、五〇〇メートルの雪の急斜面でのピッケルの使い方を叱られた他は何かも容認していただき、いろいろと学びつつ、苦しいながらも心豊かに楽しく登ることが

できました。

一九〇三年、初めてマッキンリー登頂が試みられてから一九九五年までの平均登頂率は五二パーセント(Mount McKinley—The Conquest of Denali)ですが、大蔵隊長のそれは九八パーセントです。これは大した偉業ではないでしょうか。日本人登頂最高齢男性六十五歳、女性六十歳とともに大蔵隊から生まれました。

他の日本隊の若い女性「男性の足を引っ張ることになるから」と四三〇メートルのベースキャンプまで入りながら登頂をあきらめたのを見て「本当に気の毒だな」と思いました。ゆっくり登ることがいつの場合にも許されるわけでないのはもちろんのことですが、登頂にかかる時間の問題よりも、「全員登頂」をモットーとする大蔵隊長の登山スタイルは、本来の気象観測の成果の他に、隊員として参加した多くの若い人たちに大きな自信と希望を、私たちが年配者には夢の実現を与えてくれました。

今年設置した観測機器を来年回収した後は、十年ひと区切りというところでいったん大蔵隊長は手を引き、できればアラスカ大学なりデナリ国立公園が引き続き観測してくれればいいのだが、とのこと。あの過酷な山旅を十年も続けられた熱意と執念

に頭が下がるとともに、データが早く整理され、登山界にとって有意義な成果がもたらされることを心から期待しています。

機に積んだ二〇キロを超える今年度用の観測機器を黙々と引いておられた大蔵隊長の姿を思い出すにつけ、気象観測の次にはどのような企画を立てておられるのか、と今後のますますのご活躍を祈って止みません。

注・「第十次マッキンリー気象観測機器設置登山隊一九九九」は六月六日成田を出発、二十三日全員登頂した。登山隊は隊員十四名の予定だったが天候不順、遭難多発のため半数の七名で編成された。

ノンストップ・チャーター便でカトマンズへ!

JAZで飛ぶヒマラヤ

JAZ(ジャパン・エア・チャーター)は日本航空をバックボーンとする国際線旅客チャーター便専門会社です。

【期間】①11/19(金)~11/27(土) ②12/27(月)~1/4(火)



運輸大臣登録一般旅行業490号/日本旅行業協会正会員

アルパインツアーズサービス株式会社

〒105-0003 港区西新橋1-12-1(西新橋1森ビル) TEL.03-3503-1911
大阪☎06(6444)3033 名古屋☎052(581)3211 福岡☎092(715)1557

関空発着
羽田・福岡・札幌
から日本航空の
国内線^{【羽田】}で
関空へ

図書紹介



イラスト 蜂谷益雄

小嶋尚・著

『大地に見える奇妙な模様』

山好きの著者は、研究と山登りを両立させるために、フィールドワークを主とする水河・周水河地形など山や寒冷地域、多雪地域の地形と自然観察を専門としている。

森林限界を超えた高い山を縦走していると、地面に天狗か宇宙人が作ったかと思われないような、不思議な幾何学模様の地形に出会うことがある。それを構造土と呼んでいる。われわれはこの大きな地球の中で、いろいろな地形を見ているが、チョモランマやグランドキャニオンがで

しかし、小さな土や石が動きながらさまざまな形状を表し、規模は小さくとも、机上の理論でなく、この目で実際に構造土が形成される生い立ちの過程を見極めることができる。その実験地として南アルプス鳳凰山の薬師岳を選び、厳冬期を含めて観察を行い、地面の凍結でできた割れ目が原型となって構造土が形成されるというなぞを解き明かして行く。そして色々な模様がどこにあり、どうできるかを、大雪山をはじめ広く世界を歩きながら、構造土を紹介したのが本書である。

自然環境を大切にしたいと考える登山者に、ぜひ小さな地形の構造土にも関心を持つてほしい。

(石田要久)

一九九九年四月 岩波書店発行
一六〇ページ 千九百円

近江百山之会・編著

『近江百山』

「近江の山を愛し親しみ、百山を選定して出版することを目標にした同人組織」が約二十年かかって完成させた本だそうである。そういう登山会もあるんだなあ。

近江の山は懐かしい。琵琶湖を中心に、山城、丹波、若狭、越前、美濃、伊勢、伊賀に囲まれた近江の山

は、おそらく日本でもっとも古くから人々が分け入り往来した場所だろう。山名ひとつひとつが太古の神氣をはらみ、古来の人の営みと、兵戈のあとをしのばせる。

本書は近江の山を湖北、湖西、湖南、湖東、鈴鹿の山域に分け、編著者が踏破した二百二十五山から、絞りに絞って百山を選び、紹介したものである。ハイキングの手引きのみならず、歴史書を読むときも座右にしたい本である。

(平井吉夫)

一九九九年五月 ナカニシヤ出版
発行 二二二ページ 二千五百円

田澤拓也・著

『空と山のあいだ』

昭和三十九年、東京オリンピックが開催された年の一月、青森県の岩木山で遭難事故が発生した。冬山とはいえ、標高一六二五メートルの単独峰。信仰の山として親しまれ、夏は多くの参拝者でにぎわう山でもある。

装備も不十分なまま、冬山の経験も少ないまま、五人の高校生は山頂付近で猛吹雪に見舞われてしまう。下山路を見失って彷徨を続け、ひとりだけが九十八時間後に奇跡的に生還する。対策本部の知識と認識不足も悲劇につながった。対応の遅れ、

搜索場所の誤り、装備不足。

本書は山岳遭難を描いてはいるものの、山をテーマにした作品ではない。開高健賞を受賞し、「戦後生まれの少年たちの青春」の原点とも言うべき世界を描いている。三十五年前の青森の高校生たちだ。純朴な、どこにでもある高校生。

ただ、彼らの純朴さは、人間社会に揉まれていないことと同様、自然の恐ろしさにも揉まれていなかった。その純朴さは今日の登山家も変わっていない。岩木山を信仰する人々のように、山を崇める気持ちも必要ではないだろうか。

(永田弘太郎)

一九九九年四月 TBSブリタニカ発行 一九八ページ 千五百円

日本山岳会東海支部・編

『東海山岳』第八号

「クラブ本来の目的である登山から文化活動に至るまで」の三年余にわたる東海支部の活動を中心に編まれている。

構成は前号と同様の組み立てであり、I、II部は海外登山。支部をあげて取り組んだ「環太平洋一周環境調査登山」を筆頭に「ウルタルII峰」と「クーラ(チャルン)峰」の初登頂の報告と「K2西稜より未踏の西壁へ」などが載せられている。

Ⅲ部は、研究と論考として、先にあげた「環太平洋一周環境調査登山隊の調査報告」をはじめ、「中高山登山の諸問題」、「地図を楽しむ」、そして東海支部の科学・自然保護委員会の九回にもわたる山行報告「芦生の森を歩く」など七編である。Ⅳ部は国内登攀、紀行など六項。新たに「追悼」の項を設け「多数の雄偉な仲間を失った」悲しみも込められている。Ⅴ部の支部年表は一九九六年四月から一九九八年三月までを列記している。

通読すれば「精気みなぎる支部の実態」も理解でき、「これだけの機関誌を……出版したところはない」と自負するだけあって、その内容は大変充実したものである。なお、「東海山岳」第六号および第七号も入手可能とのことである。(柏木宏信)

一九九九年六月 日本山岳会東海支部発行 四三三ページ 三千元

佐瀬稔・著

『残された山靴』

この本は一九九八年五月、病に倒れた著者の遺稿集である。氏が日本を代表する登山家に接し、彼らの山に向かう真情に共感、その行動と想いを雑誌『山と溪谷』などに発表した文章を一冊にまとめたもの、という。

それぞれ強烈な個性を持ち、圧倒的な力で私たちを魅了した登山家。そして志半ばで山に逝ってしまった登山家八人のその物語には、改めて感動と、壮絶な自然との戦いに胸迫るものがある。八人の生と死を描く中に著者の優しさが感じられ、八人の凝縮された人生、その生きざまはそのまます著者の生きざまでもあるような気もし、終章の闘病の様子からそれが感じられる。今では思い出の人となってしまう登山家たちにこの本で出会うことができる。

(渡邊玉枝)

一九九九年六月 山と溪谷社発行 二二〇ページ 千五百円

児平隆一・文と写真／望月康、藤井晴雄、久保田竜平・写真

『南アルプス』

地元の静岡新聞社が企画し、平成十年六月から翌十一年五月まで、毎週金、土曜日の夕刊一面トップを飾った連載カラー写真と文をまとめたもの。連載中は山岳愛好家のみならず、多くの市民から次回掲載の山がどこになるか大いに関心を持った。児平隆一記者(本会会員)の取材は広範囲に及び、念がいつている。修験者や登山の先人たちの道をたどり、猟師や柚人の踏み跡を追って谷

を渡り、峠を越えて頂に至る。その過程には何のてらいもないが、回りに注ぐ目は鋭い。

高山植物の盗掘、登山者による尿汚染、カモシカによる食害、自家用車の過剰乗り入れなど、簡単に解決できない問題がえぐりだされる。

南アルプスは深山幽谷、深い緑に覆われた夏山のイメージを抱かれがちである。事実登山者の大半はアプローチの便がよい夏期に集中し、場所も広河原―北沢峠を基地とする山域に偏っているが、これは一部にすぎない。南アルプスの真の魅力は高山帯針葉樹林に覆われた深南部にある。周年にわたる南アルプスの変

化に富んだ景観のうち、改めて感じたのは、陰影に満ちた冬の山稜の美しさであった。

森があつて山がある。この本は南アルプスの将来を考える多くのヒントを与えてくれる。(安間 荘)

一九九九年六月 静岡新聞社発行 一二七ページ 千八百円

◆最新版山岳地図納入のお知らせ

このたび古谷聖司会員(七五一〇)のご尽力により、山岳地図でおなじみの昭文社より『山と高原地図』全六十七部のうち最新版六十五部をご寄贈いただきました。山行および山岳研究、調査などにご活用ください。

●新ハイキング選書●

藤井寿夫著

中央線の山を歩く

A5判・286頁・定価1680円(税込)

中央線の山を歩いて50年、中央線の山107座の紀行と案内。朝立ち、日帰りの範囲内、あまり登山者の歩かれていない山に重点を置いている。読物としても楽しい。最新刊 増刊出来

●新ハイキング選書●

山旅素描

足立真一郎画伯著 山岳画家の第一人者

A5変型判 上製本 定価1835円(税込) 好評三刷発売中

思索は人生を一層豊かに楽しくする。私の山歩きは、その都度幾枚かのスケッチをする。そのスケッチを中心とした、画文集。

新ハイキング社

東京都北区滝野川 7-6-13
電話・FAX 03(3915)8110

図書受入報告 (1999年7月)

著 者	書 名	ページ・大きさ	出版元	出版年	寄贈／購入別
堀込静香 (編)	沼田眞・自然との歩み：年譜／著作総目録	240pp/23cm	信山社サイテック	1998	編者寄贈
岡村治信	自然にあそぶ心：山歩きと豊かな人生	219pp/20cm	原書房	1999	著者寄贈
松原尚之 (編)	日本山岳会青年部 K 2 (南南東リブ) 登山隊1996報告書	197pp/29cm	日本山岳会青年部	1999	発行者寄贈
尾瀬総合学術調査団 (編)	尾瀬の総合研究：福島・群馬・新潟三県合同調査	868pp/30cm	尾瀬総合学術調査団	1999	斎藤晋氏寄贈
児平隆一	南アルプス	127pp/21cm	静岡新聞社	1999	著者寄贈
白旗史朗	白旗史朗の山岳写真撮影テクニック	319pp/21cm	山と溪谷社	1999	出版社寄贈
浅野孝一	行く雲のごとく：高畑棟材伝	238pp/20cm	山と溪谷社	1999	著者寄贈
森山勇	ヒマラヤのパレット：描いて登って8000メートル、まだまだ行くぞ	127pp/21cm	山と溪谷社	1999	著者寄贈
木暮理太郎	山の憶い出・下巻 (平凡社ライブラリー No. 297)	600pp/17cm	平凡社	1999	出版社寄贈
日本山岳写真協会 (編)	日本の名山：写真家の視点で選んだ100山	143pp/29cm	信濃毎日新聞社	1999	出版社寄贈
大阪市立大学 (編)	四光峰の風：チベットの白き頂に立つ	132pp/26cm	毎日新聞大阪本社	1990	高尾文雄氏寄贈
北海道大学山の会 (編)	北大山の会会報 (1～55号)：昭和10年3月～58年8月	626pp/27cm	北海道大学山の会	1999	発行者寄贈
フレッシュフィールド	カンチェンジュンガー一周 (ヒマラヤ名著全集 No. 2)	340pp/23cm	あかね書房	1958	松田雄一氏寄贈
鈴木澄雄	みんなで楽しむ丹沢：22コース＋4コース	127pp/21cm	自由国民社	1999	出版社寄贈
辻岡幹夫	シカの食害から日光の森を守るか：野生動物との共生を考える	159pp/22cm	随想舎	1999	出版社寄贈
傘本徳十	山歩き五十年：躓きながら	309pp/22cm	東京新聞出版局	1999	著者寄贈
手塚宗求	霧ヶ峰花物語	94pp/20cm	恒文社	1999	著者寄贈
手塚宗求	山里の食物譜	179pp/20cm	恒文社	1997	著者寄贈
手塚宗求	山小屋に生きる	229pp/20cm	春秋社	1998	著者寄贈
奥田博	ふくしま山歩き手帳	168pp/19cm	歴史春秋出版	1999	出版社寄贈
浮田典良	スイスの風景：スイスに関する80章	166pp/22cm	ナカニシヤ出版	1999	出版社寄贈
坂原忠清 (編)	チベット未踏無名峰へ1995～1998年	230pp/26cm	日本教員登山隊	1999	発行者寄贈
武部秀夫 (編)	メラ・ピーク登山報告書：天上の楽園に遊ぶ	62pp/30cm	メラ・ピーク同人	1999	発行者寄贈
植木知司	かながわの峠 (かもめ文庫 No. 57)	201pp/15cm	神奈川新聞社	1999	出版社寄贈
鎌田昌弘 (編)	遙かなるムスターグ・アタ：栃木県山岳連盟創立50周年記念事業	182pp/30cm	栃木県山岳連盟	1999	発行者寄贈
飯田務・他 (編)	ベルクシーロイファー：特集・山スキー百山 (RSSA創立25周年記念)	214pp/26cm	スキーアルピニズム研究会	1999	発行者寄贈
宮野貞壽	ぐるっと森吉山 [改訂版]	228pp/19cm	秋田魁新報社	1998	出版社寄贈
工藤茂美	世界遺産「白神山地」	222pp/18cm	秋田魁新報社	1998	出版社寄贈

会務報告

七月理事会

日時 七月十四日 十八時三十分
二十時四十分

場所 日本山岳会会議室

〔出席者〕大塚会長、小倉、竹内各副会長、西村、村井（龍）、森、宮崎、高原、勝山、村井（葵）、高遠、宮下、溝口（鯉坂代理）、増山、坂井、河西、山本各理事、神崎、中村各監事、平山、中川、吉永、田邊各常任評議員
〔委任〕大森副会長、松原、坂本各理事、平野常任評議員

【審議事項】

一、平成十一年、十二年度海外登山基金委員会委員の選任の件 坂井委員長 大森薫雄
委員 竹内哲夫、西村政晃、村井龍一、坂井広志、中村進、本郷三好、貫田宗男、江本嘉伸、熊崎和宏、大蔵喜福
事務局は高所登山研究会に。承認
二、許可願一件 西村
第三回加賀市深田久弥「日本百名山」写真コンテストの後援を依頼された。承認

【報告事項】

秩父宮記念山岳賞運営委員会・竹内

①優秀な登山活動選考基準について

運営委員会より依頼した関連委員

会理事（学生指導部、高所、青年、

総務、財務）の意見は、登山の評

価は難しい。無理矢理選考するも

のではないが、若い人を奨励する

もの、環境、自然保護重視の登山

は評価したい。しかし、若い人は

表彰より助成のほうを望んでいる

ように思われる。なお、登山の

「継続」による業績は高く評価し

たい。

②審査委員の選任は、任期二年であ

ることから前年委員の留任を原則

とし、必要と認められる場合は新

たな委員（特別審査委員）を委嘱

する。

③応募、推薦の書類のフォーマット

を改善した。

④十二月四日の表彰までの日程概要

報告。

日本山岳会百周年の計画・高遠

別添え資料により、現在進行中の

ものを含め、百周年記念事業企画案

の提案があった。進め方についても

実行委員会を組織する前に、企画立

案する検討委員会を設置してはどうかとの意見があった。八十、九十年

記念事業の準備作業を参考にした

り、「名誉会員を囲む会」などで意見

を聞くが、本テーマは理事会とし

て進め方を検討する。

アルバータ実行委員会・増山

アルバータ峰登頂メンバーをカナ

ダ、日本各三名とする。トレッキン

グ参加者の組織化は、新加入メンバ

ーの黒川恵氏が担当。参加枠六十名

を目標に募集する。

長野高校創立百周年記念行事に大

塚会長、大森副会長が出席、ピッケ

ルの保管、展示は資料委員会が担当

日中学生友好登山隊・宮崎

別紙資料のとおり日本側は隊長一

名、隊員九名を予定しているが、現

在八名の隊員候補の申し込みがある

七月二十六日、中国登山協会より代

表団四名が来日、当ルームで議定書

調印を行い、その後歓迎会を開く。

マッキンリー気象観測登山・森

第十次登山隊は全員登頂に成功、

気象観測の目的も達成した。

山研ミニ水力発電の進捗状況・森

ボカラ国際山岳博物館報告・神崎

募金総額二四、七五六千円（内訳

日本山岳会一三、一七一千円 日本

山岳協会一〇、三二八千円 HAT

―J―、二五六千円）で日山協の事

務局経費などを差し引いてネパール

へ送金する。今後の経過については

日山協国際部より報告がある。開館

は二〇〇一年の予定。

ネパール登山協会新年度役員・神崎

副会長Ⅱアンタシリシエルパ氏
ビクルム パンデイ氏
が就任、新会長に祝電を打つ。

自然保護委員会・河西

①自然保護全国集会是九月十八、十

九日、栗駒高原で開催。

②ネパールシヤクナゲ植林基金に二

七〇万円補助金。

③「木の目草の芽」第三六号発行

④全国高校総体における登山競技対

象の山の早池峰より別の山への変

更依頼について、増田岩手県知事

より変更しない旨通知があった。

東海支部のパソコン設置助成につ

て・西村

常務理事会で事前に検討し、パソ

コン利用の有効性は分かるが、全国

支部レベルで考える必要があり、今

回は見送りたい。

冠松次郎寄贈品・溝口

遺族代表の富樫さんの意向は「写

真の乾板を正式に当会に寄贈する。

山岳博物館の展示貸出し料はすべて

寄贈品の維持費に充ててもらいたい。

また出版物で利益があった場合は、

当会と話し合いで子供二名に送金し

てもらいたい」の由。

エベレスト国際登山隊・増山

日山協より参加要請があり、関係

理事で検討した結果「判断するには

資料不足」ということになり、日山

協に通知する。

財務委員会・村井

会費納入者四二六二名(納入率七一・八%)。六月入会者二四名

総務委員会・高原、西村

①年末発行の会員名簿(一九九九年版)に載せる広告スポンサー候補の紹介をお願いしたい。

②委員会名簿の訂正は一週間以内に事務局へ連絡を。

③北海道支部創立三十周年記念行事に大塚会長、小倉副会長出席。

④越後支部高頭祭に講師として大塚会長出席。

⑤長野県戸隠村のミセス・ウェストン祭に小倉副会長出席。

青年部・山本

K2(南南東リブ)登山隊報告書を刊行。

■会員異動

物故

吉永孝行(一九七二) 99・7・3

丸山彰(三〇九八) 99・7・12

和仁古昇(七七七七) 99・7・13

退会

牧田吉明(八二四二)

岩下香代子(九四一三)

小池勤(一一八四一)

中廣敏夫(九八三三)

藤巻正巳(一一五九五)

改姓

玉木ミヨコ(一一二七九) ↓ 所

ルーム日誌

7月 秩父宮記念山岳賞運営委員会

1日 学生部 山の自然学研

2日 科学委員会

5日 総務委員会

6日 自然保護委員会 スケッチクラブ 山げらの会

7日 遭難対策委員会

8日 フィールドビデオ委 学生部

9日 海外連絡委 秩父宮賞運営委

12日 青年部 フォトビデオクラブ

高所委員会 アルバタ実行委員会 スキークラブ

13日 常務理事会 集委員会 スケッチクラブ 95同期会

14日 理事會 93同期会

15日 科学委員会 学生部

16日 百年史委員会 二火会

19日 図書委員会

21日 三水会 スキークラブ

22日 データバンク研 98同期会

23日 財務委員会

26日 資料委員会 学生部

27日 自然保護委員会 二火会

28日 海外連絡委員会

29日 秩父宮賞事務局会議 学生部

30日 科学委員会 自然保護委員会

海外登山基金委員会

7月来室者610名

INFORMATION



イラスト・村上直温

◆第八回「山を語る」・「美濃の山」

図書委員会

大垣山岳協会編「美濃の山」全三巻(本誌六四七号で紹介)の完成を機に、編者の高木泰夫氏から、奥美濃の山登り、その自然・人文・地誌を語っていただきます。

日時 十月二十九日(金) 十八時三十分〜二十時

場所 日本山岳学会議室

演題 「美濃の山」について

講師 高木泰夫会員

◆東京都水源地での自然観察会

自然保護委員会

日帰り、貸切バスで行く自然観察会です。

日時 十一月六日(土)

場所 柳沢峠付近のブナ林

集合 JR八王子駅 七時三十分

講師 東京都水道局・堀越弘司氏

参加費 バス代

締切 十月十日 定員三十名

申込 ハガキに会員番号、氏名、住

所、電話番号を明記し、西村智磨子宛(〒一六八〇〇八二杉並区久我山三二〇一) *申込者には詳細案内を送付します。

◆登山用具フォーラム

科学委員会

中高年登山者を対象に、登山用具について討論会形式の講演会を企画しました。多数ご参加ください。

日時 十一月二十七日(土) 十三時〜

場所 明治大学大学院講堂

テーマ 「登山用具の新知識 選び方と使い方」

演者 大蔵喜福氏(科学委員会委員)

越谷英雄氏(ICI石井スポーツ第二営業部)

1ツ詳細は次号でお知らせします。

◆第五回伊吹山播隆祭

伊吹山の東側、岐阜県には播隆上人の史跡、足跡が多数あります。そして承認初期の定住の地、播隆屋敷があり、ここから笠ヶ岳や槍ヶ岳へ向かいました。そのころの上人を偲び、シンポジウムを企画しました。

日時 十一月十三日(土)〜十四日(日)

場所 岐阜県揖斐郡春日村尾西国見

岳スキー場ロッジ

日程 十三日十三時開会

シンポジウムテーマ 「今度見つか

った六字名号碑の意味」

十四日八時 伊吹山・御座峰登山

(往復約四時間)

一万五千分の一地形図「美東」

費用 一万二千元 (交通費は除く)

申込・問合せ 東海支部伊吹山播隆

祭準備委員会 いなば省吾

TEL & FAX・〇五八四一七二七二四七

◆上高地山研で懇親例会を開催

ジャック 93会

日時 十月二日(土) 十六時

場所 日本山岳会上高地山岳研究所

会費 五千円+宿泊費(三千円)

締切 九月五日

申込 会員番号、氏名、住所、電話

(FAX)を明記の上、本田

榮三郎宛(〒二三四一〇〇五

五 横浜市港南区日野南五一

二七二)

*山行は各自で計画してください。

◆紅葉の大菩薩懇親山行

95同期会

都立武蔵高校大菩薩ヒュッテに宿

泊、奥多摩方面へ下山します。

日程 十一月六日(土) 十八時懇親会

七日(日) 懇親山行

宿泊 都立武蔵高校大菩薩ヒュッテ

福ちゃん荘から徒歩十分、勝

緑荘敷地内

費用 五千円程度

締切 十月二十日 二十名まで

申込 会員番号、氏名、住所、電話

(FAX)を明記の上、野口い

ずみ宛(〒一八八〇〇一三

田無市向台町四一五―三二六

FAX・〇四二四一六三二二八七

E-mail:fountain@pop21.odn.ne.jp

*大菩薩ヒュッテのHPアドレス

http://www.2u.biglobe.ne.jp/~

d-hute/

*申込者には詳細を送付します。

◆秋の奥多摩懇親ハイク

97同期会

晩秋の奥多摩三頭山を散策し、数

馬の湯に浸かって親睦を深めます。

日時 十一月十三日(土)十四日(日)

集合 JR五日市駅前八時三十五分

行程 五日市―都民の森―鞘口峠―

三頭山―横寄山―西原峠―数

馬(歩行約四時間)

宿泊 数馬の民宿「山城」(予定)

費用 約一万二千元(懇親会、宿泊)

申込 ハガキに①ハイク②懇親会③

宿泊の参加希望を明記の上、

十月末日までに日本山岳会97

同期会メールボックス宛

問合せ 池谷健(Tel・〇四二一三六

六二四八五)

◆自宅でできるトレーニング講座

山げらの会

ストレッチングと器具を使わない

筋肉トレーニングのエクササイズを

毎月一回行っています。

日時 九月七日(火)、十月五日(火)

十八時三十分―二十時

場所 日本山岳会ルーム

*参加希望者は三井まで(Tel & FAX・

〇三三四五一五三八八)

*軽装、敷物を着用ください。

◆「小島六郎文庫」のホームページ

開設 越後支部・吉田理一

平成八年に新潟県小出町で九十六

歳の夭折を全うされた日本山岳協会

元会長小島六郎氏の山岳関係図書約

千点が小出町立図書館に寄贈されま

した。現在整理中ですが、その情報を

次のホームページでお知らせします。

http://www.nttl-net.ne.jp/~

yamandyoshida

◆松田敏男版画展

組み版画とエッセイ「雲湧く分岐

点―南アルプスの四季を中心に版

画二十点を展示します。

期日 九月二十四日(金)―十月九日(土)

十時三十分―十八時三十分

(日曜休廊)

会場 ギャラリー百号(渋谷区宇田

川町三五―四 オークヴィレ

ツジ一階 Tel・〇三―三四九

六―九五一七)

◆岩切岑水彩画展

スイス、ネパール、パキスタンな

ど山の風景を中心に三十余点を展示。

期日 十月十九日(火)―二十五日(月)

十時―十九時(最終日十七時)

会場 越後屋美術サロン

中央区銀座三一六―五

Tel・〇三―三五六四―〇四八八

◆奥只見の道路立ち入り禁止の告知
らせ 電源開発株式会社

奥只見、大鳥発電所増設工事のた

め、一般の車両および歩行者は立ち

入り禁止になります。

場所 大鳥道路(奥只見ダムから大

鳥ダム間の只見川沿い道路)、

袖沢道路の一部(袖沢流域)

期間 平成十一年七月一日―十四年

十月三十一日

■訂正

八月号(六五一号)とともにお届け

けた「目録」のタイトル年号一九

九六年六月―一九九九年七月は一

九五年六月の誤りでした。お詫び

して訂正いたします。

「目録」は五〇号に一回(会報四

年二カ月分)の出版です。お手許で

訂正していただければ幸いです。

なお、今回の「目録」原稿は小倉

厚委員の多大な協力を得て完成した

ものです。深謝いたします。

(会報編集委員会)

日本山岳会会報 山 652号

1999年(平成11年)9月20日発行

発行所 社団法人日本山岳会

〒102-0081

東京都千代田区四番町5-4

サンビュウハイツ四番町

TEL 東京(03)3261-4433

FAX 東京(03)3261-4441

発行者 大塚博美

編集人 村井 葵

印刷 株式会社 双陽社